

「医療的ケア（講義・演習）」

1. 教育の責任

本コースでは介護福祉士の国家資格取得を核とした授業を展開しており、医療的ケアの授業は多職種と連携していくなかで実践的な知識技術を学ぶ授業である。具体的には、技術としては、緊急時に対応できる救急法や喀痰吸引や経管栄養について学んでいる。実際に医療的ケアを対象者に対して実施するには、就職後に実地訓練を行う必要があるが、卒業生の中には、実地訓練を行っている学生も見られ専門性を高めている。

2. 教育の理念

この授業では、医療的ケアという医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

3. 教育の方法

2年時の前期から「医療的ケア（講義）」を通年科目にて開始し、後期より「医療的ケア（演習）」の授業で技術を通して知識を学ぶ科目となる。学生はグループに分かれ、お互いにチェックしながら学んでいる。

4. 教育の成果

目標は全員技術チェックに合格し、医療的ケアにおける知識を身に付け、現場で行動できることである。さらに国家試験科目における医療的ケアの問題にきちんと回答することができることである。実技試験においては、今年度から教員を一人配置してもらい時間内に合格できた。また、国家試験において5問中正解の数が0となった場合は、国家試験は不合格となるため、最低でも1問が取れないといけなかったが、今年度は、この科目が0点の学生はいなかった（昨年は2名の学生がこの科目が0点となり不合格となった）。実技試験では全員がクリアできたが、手順における試験問題では全員は正答を得られていなかった。知識に関して国家試験問題の正答率が30%と低い点数の問題が2問あり、演習の中でも根拠や解剖生理について学習する機会を作る必要がある。

5. 今後の目標

今年度は実技試験時の教員のつく時間をふたコマ増やして、試験中に手順の根拠を確認するようにしたい。国家試験の医療的ケアの正解率を現在57%を70%としたい。